

2023 年度イラク・小児がん支援事業支援報告



■実施地域：イラク共和国クルド自治区

■支援対象者：小児がん患者、患者家族、貧困患者家族

概要

イラク全体としては治安が安定していたが、10月から始まったイスラエルによるパレスチナへの攻撃の影響がクルド自治区アルビル市内にも及び、米軍施設へのドローン攻撃や隣国からのミサイル攻撃が多発し、空港閉鎖や民間人の死者が出るなど不安定要素となった。イラクにおける物価高は更に進み、産油国でありながらクルド自治区でのガソリンは高値が続き、格差社会のイラクの中で、厳しい生活を強いられる人々も少なくない。貧困患者支援においては昨年度同様に需要が高く、支援は追いついていない状況である。また、新しくできた病棟の診察室前で子どもたちのケアが始まり、治療やフォローアップのために病院にくる子どもたちへのアクティビティを提供した。

1. 病院への医療支援及び医薬品提供

病院側からの要請に基づき、抗がん剤やがん治療に必要な医薬品支援を実施した。病院への医薬品の配給量及び配給ペースは時期にもよるが、保健省へのリクエストから実際の病院への納入まで半年ほどの時差があることが分かっており、配給量もリクエスト通りに納品されることはない。そんな中で、JIM-NETは治療に必要な医薬品を医師及び薬剤部と相談の上、2回に渡り迅速に支援することが出来た。支援額は年間16,500USD（約264万円）となった。※1USD=160円換算

2. 貧困患者支援

病院に在庫していない医薬品を外部の薬局で購入するための購入支援及び病院に通院するための交通費支援に加え、PET検査やその他実費での検査費用の一部を支援した。月々の予算は地元の患者へ2,500USD（昨年度より500USD増額）、国内避難民の患者へ2,000USD、難民の患者へ2,000USDで対応したが、いずれも一週間以内で底をついてしまう状況が近年続いている。また、PET等の検査については地元の患者には補助金が出るが、国内避難民や難民に対しては一切の補助金が出ないため、全額負担となる。そのため、検査費の支援については、国内避難民や難民の患者への支援をより強化して実施した。貧困患者支援は52,500USD、検査費等の支援は13,000USDの支援を一年間で行なった。

3. JIM-NETハウスにおける心理社会的な支援

6部屋ある患者家族のための宿泊施設では、年間一日平均利用者は13人、年間の利用者延べ人数は4,715人となった。宿泊サービスは経済的、身体的、精神的な支えとなり、開所以来ニーズが高いサービスとなっている。小児科の待合室でもアクティビティを実施しており、毎日10名以上の外来患者のケアにあたった。また、ピアサポートグループを5回実施し、49名の患者家族が参加し、患者家族が持つ悩みなどを共有した。日本の専門家と共に更なるピアサポートグループの内容を充実させ、患者家族が孤立せず、正しい知識を共有できる場を目指す。